（別紙4）　　平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1091200020		
法人名	医療法人社団三思会		
事業所名	グループホームクララ笠懸		
所在地	群馬県みどり市笠懸町西鹿田　634－5		
自己評価作成日	平成28年11月8日	評価結果市町村受理日	平成27年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13－12
訪問調査日	平成28年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

クララ笠懸は、自然に囲まれ四季を感じることができる場所に立地しています。ホーム周辺は、自然環境に恵まれている為散歩されている方を良く見かけます。犬の散歩や保育園の園児の散歩コースで地域の方と顔見知りになりあいさつを交わすことも多くなっています。ホームには、広いウッドデッキがあります。前方は広い畑が広がり、後方は赤城山を望むことができます。ウッドデッキには、居室から自由に出入りができるので利用者様が開放感を感じて頂けます。プランターに四季の花や野菜を植えいつでも見ることができ、時には食事やおやつをウッドデッキで摂るなど活用し利用者様が楽しんでいます。今年度は、地域の方にイベントのお誘いをして頂き参加したり、ホームの慰問も来て頂き地域の方との関わりを積極的にできました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域密着型サービスの意義をふまえ、町内の納涼祭や神社の祭りに参加しており、利用者は知り合いと会ったり、抽選会のくじ引きをしたりして、楽しい一時を過ごしている。民生委員の仲介では、近くの保育園児が訪問して歌や踊りを披露し、そうしたなか、園児が散歩の途中で事業所に立ち寄り交流が行われている。その他、ボランティアが事業所の庭に花や野菜を植えに来たり、事業所のイベントでは近所に案内状を持参して共に踊り等を鑑賞したりするなど、地域との関わりを大切にして事業所運営を行っている。また、毎月発行している「クララ笠懸だより」には「認知症豆知識」を毎号掲載し、家族の意見をうけて、無断外出のときに地域の人達の協力を得るため、利用者の顔写真を掲載して、自治会の回覧板で回覧している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、カンファレンスとユニット会議を行っている。理念を中心に会議を進めている。	日々のコミュニケーションを通じ、十分な観察のもとに、利用者の性格等を把握して伸ばす所は伸ばし、不足している所は補うことで、自立した生活が送れるよう、理念が実践につながる話し合いを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さんが、みどり広報や地域のイベントの案内状を届けてくださり参加することができた。ホームへの慰問も地域の方にお願いしました。利用者の知り合いの方がいたことで涙を流し喜んでいる場面が見られ地域とのつながりを感じました。	区長の案内で、町内の納涼祭や神社の祭りに参加し、抽選会のくじ引きを行ったり、知り合いと歓談したりしている。また、保育園児が訪問して歌や踊りを披露したり、散歩の途中で事業所に立ち寄り利用者と交流したりしている。訪問がある時には、近隣に案内状を持参して、共に観賞している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、地域に向けて笠懸だよりを回覧している。今年の4月より、笠懸だよりに認知症豆知識と題し認知症についての情報を記載し、地域の方へ伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に、6回の会議の中で行事やホームの活動状況の報告をしている。以前より地域の保育園、園児の慰問のお話があり、今回民生委員の方に口添えをお願いし、園児の訪問をして頂いた。	会議は、市職員、区長、民生委員、持ち回りで家族代表が出席し、活動状況等を報告している。意見交換では、避難訓練参加への近隣の方への声かけ、保育園児との交流について提案があり、提案をうけ実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。ホームの状況や空所情報など伝えいる。会議の案内状や会議の報告書を市役者の担当者に届け協力関係を築いている。	運営推進会議の開催通知や議事録を持参した際に空き室状況等を伝え、市から高齢者に関する情報等を受けている。また、インフルエンザの発生状況や地震・台風情報等は、メール連絡がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	群馬身体拘束廃止推進事業・身体拘束廃止に関する養成研修に参加し、職員に伝え拘束のないホームを目指し取り組んでいる。	県や法人主催の身体拘束に関する研修会に参加した後は、報告書を提出し、職員会議で報告するなど、身体拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎年、施設内で勉強会を開き学ぶ機会を設けている。施設外での勉強会の案内状も届くので学んだことを生かしホームで虐待が無いように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会があるが、より深い制度について学び、支援に向けて活用できるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書をご家族の方に丁寧に読み上げ説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面談を必ず行っている。面会時にも意見・要望を聞くようにしている。	年1回家族アンケート調査を行う他、家族面談を随時に開催し、看取り等について意見交換を行っている。家族からの無断外出の際に地域の人達の協力を得るために毎月発行の「クララ笠懸だより」へ顔写真を掲載し知ってもらいたいという希望をうけて、自治会の回覧板で回覧した事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会議を開き聞く機会を設けている。行事やコミニケーションに役立てている。	毎月第1水曜日に「ユニット会議」を開き、年間行事計画の策定やケアの統一等について話し合っている。また、法人が運営する8つのグループホームの管理者会議を毎月開催し、問題事例の解決方法等を話し合い、ケアの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤、公休を平等に取っている。希望公休が重なった時は、話し合いで決めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内以外の研修を受ける機会があり、特に、力不足の職員には進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議・ホーム会議・運営推進会議を通しサービス向上させている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の様子を十分観察し、落ち着きがなく不安な方には、職員が安心した声かけをし、訴えられない方には、寄り添い関わりを持つ事で関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学して頂き、サービス内容を十分説明している。ご本人の状態とどのようなサービスを望んでいるのか面会時などに伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人または、ご家族から以前の生活や今の状態についての情報を細かく聞き今必要としている事を見極めて対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員本位で決めず、できるだけご本人の希望を聞き出し、一方的な立場にならない関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子の中で小さな変化に気付き、ご家族に報告し希望を伺っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加している。近くのひまわり畑や小菊の里や紅葉を見にドライブに外出している。帰りに利用者様の希望でご実家に立ち寄り野菜を頂いた。	地域の人に訪問を依頼し、そうしたなかで利用者とひさしぶりの再会ができた事例もある。以前の弟子の訪問や友人が野菜を持参、利用者が道案内をして知人の農家へ行くなど、継続して交流が行われるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話や移動の出来ない方は、声かけして職員が利用者が関われる場所へ案内をして孤立しない様に支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時、ホームでの生活状況を細かく伝えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや暮らしの意向を優先している。困難の時は、様々な状況・情報から意向の把握に努め支援を検討している。	夜勤帯の利用者がゆっくり過ごしている時、あるいは、夜眠れない人がいる時などに、思いや希望を聞き、そうしたなかで、家族に依頼して絵の具やCDなどを持って来てもらっている。意思表示の難しい人には、言動や顔の表情からくみとり、ケアカンファレンスで話し合い、統一した支援が行えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活環境をご家族やご親戚の方に情報を得てサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前はラジオ体操と歌を合唱し、午後はテレビを見る方や折り紙をする方や散歩に出かける方と本人のその日の様子を記録し申し送ることで情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月にごとにモニタリングと6か月ごとに介護計画を見直している。ご家族の情報や本人の状態をカンファレンスし介護計画やモニタリングをしている。	面会や家族面談の時に希望等を聞き、3ヶ月毎に行う評価表に基づき、重要な変更のある時は家族も参加するサービス担当者会議を開き、介護計画を作成している。介護計画の支援内容が、ケア記録に反映されてない項目が見られる。	介護計画の支援内容にそったケア記録が行われることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	週に一度担当者が、ケア実践記録をチェックしている。気付きや工夫を記入し、カンファレンスの際共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員と家族が共に協力し合い本人の意思を尊重した対応をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りや神社のお祭りなど参加することで暮らしの楽しみを見つけ支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回かかりつけ医が往診している。ご本人の様子をその都度報告している。ご家族の希望を職員が伝えたり必要に応じて、医師より直接ご家族へ電話をしている。	入居時に、事業所の協力医の診療状況を説明し、家族が希望したかかりつけ医に受診している。事業所の協力医は月2回往診し、協力医が眼科等の受診予約をとり紹介状を渡し、家族が対応している。今年9月から、投薬間違いが無いよう、薬局が2週間分を朝・昼・夜に小分けして事業所に届けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	どんな小さな事でも変化に気付いたら職員同士申し送り訪問看護等に伝え必要に応じて適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ出向き看護師より状態の説明や退院後の指導を受け早期にホームへ戻れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化対応・終末期ケア対応指針について説明している。ホームで出来る事を説明している。	法人が運営する8つのグループホーム共通の方針のもとに、重度化や終末期の支援を行っている。重度化した場合は、主治医を中心に家族、看護師、職員で話し合い、家族の意向に添った看取りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、施設内で勉強会を開き救急救命・AEDの使い方を消防署に講師をお願いして実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練は、運営推進の役員の方に避難の様子を見て頂いている。夜勤帯を想定しての避難についても訓練を行っている。	避難訓練は、運営推進会議の意見を受け、近所の人も参加できる土曜日を設定し、夜間を想定して、近所の人も参加し行われている。備蓄は法人本部で行っている他、事業所も卓上コンロ等の備品や3日分の食糧と飲料水を備えている。	避難訓練には、職員が年1回は参加できるようにすることで、全職員が避難できる方法を身につけるような取り組みを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格をしっかり見て、言葉掛けの対応をしている。	日々の支援では、一人ひとりの人格を尊重し、丁寧な言葉かけや大きな声を出さず優しく話しかけるよう支援している。事業所のおたよりに掲載する時には、本人や家族の同意を得るなど、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく本人の希望を伺っているが、利用者が自己決定をするのが困難な時があり、その時は職員が提案をし、意見を聞かせて頂く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の状態を優先して個々のペースに合わせ、無理強しない支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームへ美容師さんに来て頂き、カットや毛染めなど好みの髪型にしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備や片付けは出来ていない状況だが、料理の味見などをして頂き、アドバイスをもらっている。	調理専任の職員を配置し、丑の日のうなぎ料理など利用者の希望を取り入れ、季節感のある食事を提供している。、利用者には、味見や食器拭きなどをしていただいている。夏には近所の人が竹を持参しウッドデッキで流しソーメンをするなど、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理担当者がその都度バランスのとれた献立を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケアを声かけして行っている。必要に応じて訪問歯科に往診に来て頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者がトイレの場所が解らない時は声かけし誘導したり、歩行が無理でも立位が出来る方は、なるべくトイレ内で排泄して頂いている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握すると共に、立ち上がるなど便意のサインを見落とさないよう見守りをして、トイレ誘導を行っている。トイレの場所が分からない人には、手を差し伸べて誘導するなどの支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージや体操を行ったり、下剤の量や服薬時間を調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や気分に合わせて入浴を行っている。入浴時は声かけをして、誘導や湯加減などの希望を訊いたりしている。最低週2回入浴を行っている。	週2回入浴しているが希望により入浴日を増やし、入浴を拒否する人には翌日に変える等無理強いすることのないよう支援している。入浴の際は、利用者の希望による温度に設定し、ゆず湯など季節感を取り入れた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る前の習慣の理解や、落ち着くためにお話しを傾聴し、利用者の気持ちを尊重し安眠して頂くよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬介助時に服薬を使用する利用者の個々の名前や日付を声に出して確認している。利用者の体調不良や変化時には、かかりつけの医師に報告し、相談して服薬の是非や、新たな薬の処方を決めて頂く。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫や折り紙、絵描が得意な方には、気分が乗られている時にして頂いている。また、合唱やトランプ、かるた、風船バレーなど多人数で出来るレクリエーションも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣でお祭りやイベントがある時は積極的に参加させて頂いている。普段でも公用車を使い、周辺の公園や植物園、外食等に出かけている。	車いす利用者も日常的に散歩に行き、花見や町内のお祭りなどにも出掛けている。また、年1回は家族も参加する8つのグループホーム合同のバス旅行を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預りホームで管理している。ホームへヤクルト販売が来るので希望者は買っている。必需品は、職員がその都度お小遣いで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば自宅や親戚に電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や外出・ご親戚の面会時には一緒に写真をいつでも見られるようにホールの壁にはっている。	冷暖房の風が直接利用者に当たらないように、テーブルの配置を行っている。ホールの壁には職員と共作したクリスマスツリーの折り紙を貼り、季節を感じとれるようにしている。また、気候の良いときは、ウッドデッキで昼食やお茶会を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室なので、昼寝や折り紙をしたりと思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やお誕生日の写真を飾り本人が見て居心地良く過ごせる様にしている。	絵の具や裁縫用具、CDや大好きな犬のぬいぐるみなど、好みのものを身の回りに置いており、家族と相談して新聞を購読している方もいる。家族や行事の写真を飾り、安らぎを感じられるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	机の配置や自席を決めて自分の居場所がわかる様にしている。		